

編 集 後 記

新しい年を迎え、(北半球では) いよいよ冬本番、雪氷災害の研究・調査や対策に携わる方々にとっては、災害に結びつく現象を逃さないように日々の情報や状況に気を配っていることかと思えます。一方、雪氷災害の対策は進んでおり「もう解決済み」と考えている方もいるかもしれませんが、しかし、最近の災害事例がまだ多くの課題が残されていることを示しています。

この原稿を書いている平成 23 年末、クリスマスの連休を狙ったかのように吹雪や大雪が数日にわたり続く予報が出されています。ちょうど一年前の年末も強い寒気の南下に伴い福島県や鳥取県などで大雪による被害が起き、同時に世界に目を向けると、北米東部でも雪や寒さによる災害、モスクワ周辺では着氷による交通障害や電力の供給停止などの被害が生じたことは

記憶に新しいところです。今回も、すでに北米中部で雪による災害が報道されており、日本における寒気南下の影響が心配されます。

雪氷災害の研究や調査を行うことを仕事としている身として、雪氷災害への対策が進み情報網が発達した現在でも雪氷災害が起き続けていることを真摯に受け止め、過去の災害記録から自然の声に謙虚に耳を傾けてそれを翻訳し、教訓として将来へ活かしていくことはもちろん必要なことだと考えています。それに加え、自然に対抗するのではなく自然の中で生きていることを改めて認識し、“私たち個人”が災害を回避する知識と工夫に基づいて日々の行動を考え、あるいは生活様式を見つめ直すことも必要ではないかと、最近特に思います。

(松下拓樹)